

 コスモ石油株式会社

C ' S M A I L

VOL. 49

株主通信《シーズ・メール》SPRING 2006



安定した収益基盤の確立と CSR(企業の社会的責任)経営の 推進を経営の両輪として取り組み 企業価値向上に邁進

今回は、コーポレートブランド経営など
様々な角度から企業経営論を提唱されている
一橋大学副学長、伊藤邦雄先生をお招きし
コスモ石油グループのCSR経営について
当社社長木村彌一と意見交換をしていただきました。

企業価値の向上に繋がる CSRについて

伊藤▶ 現在、日本企業の多くが
社会的責任を果たすCSR経営
に取り組んでいます。しかし、
その中身をよく見てみると、同

業他社がやっているから自社で
も取り組むといった横並び的施
策としてのCSRと、本物の
CSRとに二極化している気が
します。わたしは、コーポレ
ートブランド経営ということをテ
ーマとして研究を続けていまし

て、その視点から見るとCSR
を推進していくことで企業の無
形固定資産のひとつであるブラ
ンド価値が向上し、その結果と
して企業価値が高まるというの
が本物のCSR活動ではないかと
考えています。そのためには、



一橋大学副学長

伊藤 邦雄氏

Kunio Ito



コスモ石油株式会社代表取締役社長

木村 彌一

Yaichi Kimura

顧客にとっての価値だけでなく株主価値、従業員価値など様々なステークホルダーから見たコーポレートブランド価値を高めていく活動が大切だと考えていますが、コスモ石油の取り組みはいかがですか？

木村▶ わたしは2年前に社長に就任したのですが、その当初からCSRを経営の重要課題として掲げ、「安定した収益基盤の確立」と「社会的責任を果たすこと」を経営の両輪として取り組んできました。やはり企業で

すから、まずは収益を上げることが重要です。そして社会に対する企業としての責任をしっかりと果たし、社会に貢献する。この2つをバランス良く追求することで、収益基盤の確立と社会貢献が正のスパイラルとなって、さらに企業価値が高められ、より一層の社会貢献が可能となると考えています。ですから、CSR経営を推進することと企業が収益を上げることが決して別の話ではなくて、むしろ両立しないと企業は持続・成長できないと

思うんです。

伊藤▶ 確かに企業が収益を上げることとCSRとは相反するテーマではなく、両輪で取り組むことが重要ですね。俗な言い方で、誤解を恐れずに言えば、日々の収益を追求するというのが、小さなそろばんであれば、CSRを意識しながら行う経営は大きなそろばんです。小さなそろばんは企業を持続させていくために重要ですが、それだけでは今後、厳しい競争に勝ち抜くのは難しい気がします。今の消費者の購買活動というのは単に商品の価値だけではなく、それを製造する企業の社会的価値に大きな関心があります。コスモ石油にとって顧客価値の創造という点では、どのような取り組みをされていますか？

木村▶ コスモ石油のSS（サービス・ステーション）に来店されるお客様に提供するの石油製品という可燃物ですから、まず何より安全性ということが重要になります。製品の安全性はもちろん、車の安全や快適性を向上するために整備・点検、カーケアサービスも提供していますが、コスモ石油のSSならい

つでも安心して給油できる、車の相談にも乗ってくれるという信頼関係を結ぶことが大切です。一方で、石油という化石燃料を扱う企業としては地球環境保全ということがもうひとつの重要なテーマです。自社製品の環境対応はもちろん、油田や製油所、SSなど全ての事業領域における環境対策を連結中期環境計画としてまとめ、推進しています。

伊藤▶確かに、コスモ石油のテレビコマーシャルを見ていると、環境への取り組みを前面に出されていて、とても印象に残っていますが、具体的にはどのような活動をされていますか。

木村▶自社製品の品質の向上や安全性の確保は当然としまして、当社独自の取り組みとして、コスモ・ザ・カード「エコ」というクレジットカードを発行し



お客様と当社グループが一体となって 国内外の環境保全プロジェクトを 推進しています

ています。これは当社SSでのお支払いの時に使っていただけるクレジットカードなのですが、クレジット機能にプラスしてお客様に地球環境保全にご参加いただける機会を提供している点が特徴です。現在約8万人の会員様がいらっしやいまして、会員様からは年間500円のご寄付を頂戴し、当社からもカード売上的一定割合を寄付することで「コスモ石油エコカード基金」を設立し、国内外の環境保全プロジェクトを推進しています。海外では、南太平洋のソロモン諸島やパプアニューギニアで循環型有機農業の普及を支援したり、国内では工業地帯に隣接する地域の子どもたちに棚田での田植えなどの体験を通して農業・食糧・途上国について

考えてもらうプログラムなどを展開しています。

伊藤▶素晴らしい活動をされていますね。わたしが実施した調査でも、環境に対して熱心な取り組みをして高い評価を得ている企業と、環境であまり高い評価を得ていない企業のブランド価値を測定すると、熱心に取り組んでいる企業のブランドスコアやブランドイメージが高いことが確認できました。両社の収益力が同じ位でも、環境への意識の差により企業価値には大きな差が出てくることになりました。環境経営というのは企業の環境対応がステークホルダーに理解されることで、ブランド価値向上に繋がっていくことだと考えます。また、従業員に対する調査結果でも環境対応に熱心な企業の従業員は自社に対する誇りが高く、帰属意識が強いという結果が出ています。企業にとって最も重要な経営資源は「人」ですから、環境への取り組みは従業員の活力にとっても良

伊藤邦雄氏プロフィール

一橋大学院博士課程修了後、スタンフォード大学研究員を経て92年から一橋大学教授、現在は一橋大学副学長。主な著書に「実践・コーポレートブランド経営」「ゼミナール現代会計入門」(共に日本経済新聞社)

い影響を与えていると思います。

木村▶ おかげさまで、海外の環境活動ではこれまでの当社の活動に対して昨年パプアニューギニアの農業畜産大臣から感謝状をいただきました。一方、メディアを活用した情報発信も環境活動のイメージで統一しています。新聞社の環境広告賞なども受賞しまして、「環境のコスモ石油」というイメージも定着してきたかなと感じています。

伊藤▶ 企業というのは多面体ですから、商品や技術力、研究開発など様々な側面があり、情報発信も多彩なのですがステークホルダーから見ると逆に分かりづらい面があります。そこを環境というひとつのテーマで統一しているということは、受け取る側から見てもイメージしやすいし、理解されやすいと思います。

新・連結中期経営計画の推進

伊藤▶ 「安定した収益基盤の確立」という部分では、どのような施策を推進されていますか。

木村▶ 昨年4月から3年間の新・連結中期経営計画を策定して、付加価値向上と合理化を推



コスモ石油株式会社 代表取締役社長
木村 彌一

進することで、連結営業利益ベースで350億円の収益改善を目指し、取り組んでいます。石油事業における付加価値向上策として、供給部門では製油所のオペレーションの最適化や省エネを推進しています。販売部門では競争力の高い特約店や販売店での効率的な販売に注力していき、特にSSではお客様のニーズが高いセルフSSの新設や車検・整備、オイルなどカーケアサービスを提供するオートピークルネットワークの展開を推進しています。また中東地域での原油開発にも取り組んでいます。アラブ首長国連邦では30年以上原油を生産していますが、隣国のカタールでも、まもなく原油の商業生産を開始する予定です。石油化学事業としては中国などで需要が拡大しているペットボトルやポリエステル繊維の原料となるミックスキシレンの製造・販売会社(CM

アロマ株式会社)を昨年設立し、事業展開を進めています。

伊藤▶ 財務内容や収益目標について、具体的な取り組みはありますか。

木村▶ 財務面では、有利子負債の削減に取り組み、07年度末には4,280億円、総資産に対する有利子負債の比率を32%まで低下させる計画です。収益面では、07年度の連結経常利益は820億円、連結当期純利益は412億円、連結株主資本に対する当期純利益の割合であるROEは13.6%を目標としています。

伊藤▶ コンプライアンス(法令順守)やリスクマネジメント(危機管理)では、どんな施策と組織体制で取り組まれていますか。

木村▶ 法令や社会的規範に則って、社員がとるべき行動をまとめた「コスモ石油グループ企業行動指針」を策定しています。組織としては、取締役会に直結する「コスモ石油グループ企業倫理委員会」を設置しています。わたしが委員長を務めておりまして、毎年方針や実行計画を策定し、実績については取締役会がチェックとレビューを行います。リスクマネジメントについ

ては、「リスクマネジメント委員会」を昨年設置致しました。毎年リスクの洗い出しから評価まで全社的に行い、不測の事態に対する体制整備を行っています。また、人材面では創造的で革新的な人材が活力を発揮できる企業風土を作りたいと考えておりまして、成長と自己実現が達成できる人事施策に取り組んでいます。今申し上げたような目標を「コスモ石油グループ連結中期CSR計画」としてまとめ、2005年度から3年計画で推進しています。しかし、組織や規則をどんなに整備しても、社員一人ひとりが高い倫理観やモラルを持って自主的に行動することが何より大切です。今後更なる意識づけが課題です。私自身も色々機会を見つけては、社員に向けたメッセージを発信していきたいと考えています。



インターネットやメディアを活用して ステークホルダーの方々と双方向の コミュニケーション活動を推進しています

社会貢献活動と IR活動について

伊藤▶ 社会貢献活動やメセナ活動にも独自の取り組みをされていますね。

木村▶ 社会貢献活動を行うに当たっては、まずコスモ石油のオリジナリティがあること、そして社員が自ら参加し、長期継続していくことを基本としています。次世代を担う子どもたちの環境啓発や心豊かな文化的社会の構築をテーマとして、地球環境保全を呼びかけるコンサートを開催したり、環境マガジンを発行したりと、環境意識啓発のお手伝いもさせていただいています。その活動の一環として車社会への還元の意味合いも含めて、交通遺児の小学生を対象に「コスモわくわく探検隊」という2泊3日のキャンプを毎年開催しています。雄大な自然の中でゆったりした時間を楽しみながら、自然環境を守るために何ができるかを考えてもらえるよ

うなプログラムを企画し、実施しています。おかげさまで事故もなく13年続いています。

伊藤▶ 13年継続しているというのが、素晴らしいですね。日本の企業には陰徳という思想があって、せっかくだいいい活動をしているのに積極的にPRするのは日本人としての美意識に欠けるみたいない部分がありますが、わたしは逆にそれは機会損失になると思います。例えば、リクルート活動においても、コスモ石油の社会貢献や環境活動を知っているのといないのでは、学生の入社希望にも大きな差が出ると思いますね。必要以上にPRすることはないですが、身の丈に合ったコミュニケーション活動というのは、大切だと思います。また、コミュニケーション活動の中で、コーポレートブランド価値を左右する上で重要なポイントとなるIR活動では、どのような点に注力されていますか。

木村▶ 株主、投資家の皆様に対しましては企業経営の透明性を高め、四半期毎の事業概要・財務情報を適切に開示するのは当然の事として、インターネットやメディアを活用した双方向のコミュニケーション活動を推進しています。特に、機関投資家の方と個人株主の皆様とで情報格差などが発生しないように努めています。投資家の皆様は業績の結果だけで投資を判断されているわけではなく、将来に向けて会社がどのような方向性で動こうとしているのか、そのために現在何をしているのかの情報を求めています。またその範囲も設備投資や財務戦略に始まって、環境、社員、社会貢献など関心の重点は大変広い。こうした要求に応えるためには、できるだけ幅広い情報を、タイムリーにわかりやすくお伝えすることが重要だと思い、専門の部署としてのIR室を作って任務に当たらせています。現在は、投



資家向けのホームページの充実、株主通信の年4回の発行など、情報の質と量の向上を推進するほか、アンケートなどを定期的実施し、皆様からいただいた貴重なご意見は担当部署を交えて検討し、経営施策に反映しています。前々号のシーズ・メールでもアンケートを実施した所、5,000通を超えるご回答をいただき大変ありがたいことだと思っています。

歴史から学ぶ現代の企業経営について

伊藤▶ 歴史上の人物などで、お好きな方はいますか。

木村▶ 徳川家康について書かれ

た本やテレビなどをよく見ていまして、魅かれる部分がありますね。物事を多角的に判断して、戦略を練っていたりすることに共感を覚えます。

伊藤▶ 今の企業経営というのは、本当に難しいことが多いと思います。環境の変化が速くて激しいし、過去の経験則で対応できる部分も少なくなりました。それでも長い時間軸で考えると歴史に学ぶことは多いと思います。特に戦国時代はある意味で情報戦、組織戦という部分もありますので、現在の経営戦略に通じるものがある気がします。これから、企業の経営環境も厳しい側面があり、外部要因などにより業績が上下する可能性もあると思いますが、コスモ石油が取り組まれているCSR活動は経営の下支えとしての役割を果たし、コーポレートブランドにもいい影響を与えるものだと思いますので、今後益々の発展を期待します。

用語解説

オートビークルネットワーク

車検・整備、オイル、タイヤなどのカーケア販売施設を備えた大型のSSと周辺の中小SSが連携することで、ネットワーク内のどのSSでも同じカーケアサービスを提供できる仕組み。

CMアロマ株式会社

2005年4月に設立し、同年7月より10万トン/年のミックスキシレンを製造・販売しています。更に、2006年7月には27万トン体制となる予定です。

第100期(2006年3月期) 第3四半期財務・業績 のご報告

石化原料のナフサや灯油の需要増で販売数量が増加
連結グループも順調に推移

株主の皆様におかれましては平素よりご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社の第100期、第3四半期(2005年4月1日～12月31日)の財務・業績の概要をご報告するに当たり、ごあいさつ申し上げます。

当第3四半期における国内経済は、世界景気の着実な回復を背景に企業収益が改善し、設備投資の増加や個人消費の緩やかな拡大に支えられ堅調に推移しました。このような環境下、旺盛な需要が続いている石油化学原料のナフサや12月の記録的寒波の影響で暖房用灯油が増加したことにより、当社個別の総販売数量は3,364万KLと前年同期比103.2%となりました。当社購入の原油価格は世界的需給のひっ迫を背景として4月～12月平均1バレル52.97ドルと高値で推移し、為替レートは4月～12月平均1ドル111.15円で推移しました。国内の製品市況は原油高の環境下、コスト転嫁に努めたものの、原油価格の変動に対応した市況形成までに

連結業務ハイライト

(単位:億円)

	2006年3月期 第3四半期	2006年3月期 通期予想
売上高	19,055	26,500
営業利益	845	1,070
経常利益	919	1,170
四半期(当期)減利益	477	600

は至りませんでした。

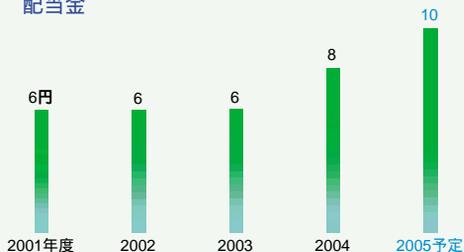
当第3四半期、コスモ石油グループは石油事業、石油開発事業における連結会社が堅調に推移し、連結売上高は1兆9,055億円、経常利益919億円、四半期純利益477億円となりました。

当第3四半期の連結キャッシュ・フローにつきましては、営業活動は原油価格の上昇に伴うたな卸資産及び売掛金の増加などの影響により1,169億円のマイナス、投資活動は固定資産の取得による支出などにより69億円のマイナス、財務活動は借入金の増加などにより1,398億円のプラスとなりました。これにより、当第3四半期末の現金等残高は前期末比166億円増の546億円となりました。

通期業績予想の上方修正と 期末配当予想の修正について

昨年11月15日に公表しました業績予想と比較して、原油価格が大幅に上昇したことに伴い、在庫評価の影響による売上原価の押し下げ効果が前回想定より180億円増加し、420億円となると想定してい

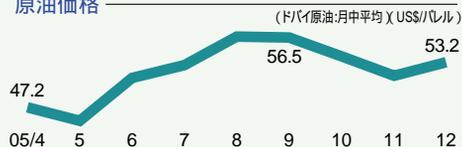
配当金



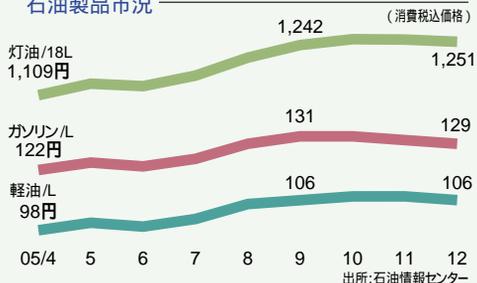
ます。これにより2006年3月期の連結売上高は2兆6,500億円、経常利益1,170億円、当期純利益600億円に予想を修正いたしました。期末配当につきましては、普通配当5円に合併20周年記念配当2円を加え7円を予定しており、年間配当予想を8円から10円へと修正いたします。

今後とも一層のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

原油価格



石油製品市況



販売の状況

油種別販売数量 (単位:千KL・1)

	当第3四半期 (2005.4.1~12.31)	前第3四半期 (2004.4.1~12.31)
ガソリン・ナフサ	13,429	13,057
灯油・軽油	10,702	9,989
重油	7,397	7,461
その他	2,110	2,103
合計	33,640	32,612

連結財務諸表

原油価格の上昇に伴いたな卸資産が 増加したことなどにより総資産が増加

当第3四半期末の連結総資産は1兆5,667億円となり前期末比2,436億円増加となりました。これは、原油価格の上昇に伴うたな卸資産及び売上債権が増加したことなどによるものです。株主資本は前期末比719億円増加して2,998億円、株主資本比率は1.9%増加して19.1%になりました。

連結売上高/経常利益/当期(四半期)純利益推移 (単位:億円)



連結総資産/株主資本/比率の推移 (単位:億円)



要約連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当第3四半期 (2005.4.1~12.31)	前第3四半期 (2004.4.1~12.31)	増減
売上高	19,055	15,585	3,470
売上原価	17,191	14,197	2,994
売上総利益	1,864	1,388	476
販売費及び一般管理費	1,019	980	39
営業利益	845	408	437
営業外収益	185	122	63
受取利息及び受取配当金	61	20	41
為替差益	11	10	1
持分法投資利益	72	49	23
その他	41	43	- 2
営業外費用	111	110	1
支払利息	80	86	- 6
その他	31	24	7
経常利益	919	419	500
特別利益	22	22	0
特別損失	34	165	- 131
税金等調整前四半期純利益	907	276	631
法人税等	406	117	289
少数株主利益	24	- 5	29
四半期純利益	477	164	313

損益計算書の当第3四半期、前第3四半期は億円未満を四捨五入しています。

要約連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当第3四半期末 (2005.12.31)	前連結会計年度末 (2005.3.31)	増減
資産の部			
流動資産	8,447	6,112	2,335
現金及び預金	546	290	256
受取手形及び売掛金	3,341	1,923	1,418
有価証券	15	59	- 44
たな卸資産	3,146	2,331	815
その他	1,399	1,509	- 110
固定資産	7,220	7,119	101
有形固定資産	5,555	5,572	- 17
無形固定資産	126	144	- 18
投資その他の資産	1,539	1,403	136
資産合計	15,667	13,231	2,436
負債の部			
流動負債	8,379	6,926	1,453
支払手形及び買掛金	2,427	2,792	- 365
短期借入金	2,216	1,501	715
一年内償還予定の社債	113	215	- 102
コマーシャルペーパー	470		470
未払金	2,021	1,651	370
その他	1,132	767	365
固定負債	4,091	3,847	244
社債	328	358	- 30
新株予約権付社債	180		180
長期借入金	2,914	2,904	10
その他	669	585	84
負債合計	12,470	10,773	1,697
少数株主持分			
少数株主持分	198	179	19
資本の部			
資本金	624	519	105
資本剰余金	446	341	105
利益剰余金	1,586	1,152	434
土地再評価差額金	201	201	0
その他有価証券評価差額金	152	79	73
為替換算調整勘定	- 9	- 11	2
自己株式	- 1	- 1	0
資本合計	2,998	2,279	719
負債・少数株主持分及び資本合計	15,667	13,231	2,436

貸借対照表の当第3四半期末、前連結会計年度末は億円未満を四捨五入しています。

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第3四半期 (2005.4.1 - 12.31)	前第3四半期 (2004.4.1 - 12.31)
A. 営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	90,683	27,577
減価償却費	21,059	18,595
減損損失	1,184	10,134
受取利息及び受取配当金	- 6,142	- 2,001
支払利息	8,048	8,621
売上債権の増減額	- 141,853	- 111,276
たな卸資産の増減額	- 81,506	- 63,953
仕入債務の増減額	- 36,434	39,879
その他	66,428	7,202
小計	- 78,532	- 65,222
利息の収支・配当金の受取額	2,052	- 5,363
法人税等の支払額	- 40,417	- 10,823
合計	- 116,897	- 81,408
B. 投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得・処分による支出・収入	- 12,678	- 22,186
貸付金による支出・収入	1,561	- 5,104
有価証券等の取得・処分による支出・収入	4,239	6,226
合計	- 6,878	- 21,065
C. 財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期・長期借入金の増減額	72,982	11,209
コマーシャルペーパーの純増減額	47,000	32,000
株式の発行による収入	20,810	
社債・新株予約権付社債(転換社債)の純増減額	4,770	
配当金の支払額	- 5,172	- 3,789
その他	- 614	- 625
合計	139,776	38,793
D. 現金及び現金同等物に係る換算差額	450	230
E. 現金及び現金同等物の増減額	16,451	- 63,449
F. 現金及び現金同等物の期首残高	38,061	104,520
G. 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	100	
H. 現金及び現金同等物の期末残高	54,613	41,070

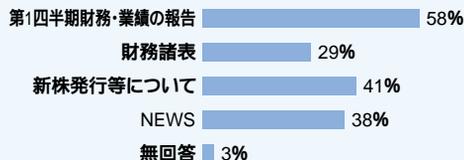
連結キャッシュ・フロー計算書の当第3四半期、前第3四半期は百万円未満を四捨五入しています。

読者の皆様からのご質問につきまして ご回答いたします。

シーズ・メール47号の読者アンケートでは5,000通を超えるご回答をいただき、誠にありがとうございました。カレンダーにつきましては準備させていただきました4,000を超えるご応募がありましたので、厳正な抽選の上、12月中旬に発送させていただきました。今回はアンケートの集計結果のご報告と併せて数多く寄せられたご質問に対しまして、誌面でご回答させていただきます。

「シーズ・メール47号のなかで、興味を持った記事について教えてください。」という設問に対し、「第1四半期財務・業績の報告」が58%と高い関心を示され、以下「新株発行等について」が41%、「NEWS」が38%というご回答をいただきました。

興味を持った記事（複数回答）



Q1 石油精製以外の事業の内容について教えてください。(51歳 女性)

関連会社の事業の詳細について教えてください。(45歳 男性)

A1 今後発行するシーズ・メールの中で毎号スペースを割いて順次ご紹介していく予定です。また、主に個人投資家の方を対象にしたIRサイトを新たに開設いたしました。その中で、石油事業などの概要についてご説明していますので、ぜひご覧ください。



個人投資家の皆様向けホームページ
<http://www.cosmo-oil.co.jp/ir/guide/>

Q2 裏表紙に書いてあるSOY INKとはなんですか。(56歳 男性)

A2 大豆インキのことです。大豆インキは、環境保護に対応する製品として開発されました。印刷工程において大気汚染物質の発生が少なく、生分解性に優れ、土中分解が早いと言われています。更に、印刷用紙のリサイクルがしやすく、節水や省エネにつながるというメリットがあるため、シーズ・メールでも採用しています。



Q3

新株発行により調達した資金の使い道とその効果について、教えてください。(46歳 男性)

新株発行の目的について、教えてください。(36歳 女性)

A3

当社は昨年9月に公募による新株発行、第三者割当増資、無担保転換社債型新株予約権付社債により約388億円の資金を調達いたしました。この調達資金は、グループ全体で収益力向上を目指すための戦略投資を中心に充当する予定です。

内訳としては、

中東のカタール国における原油の探鉱開発費用に27億円、

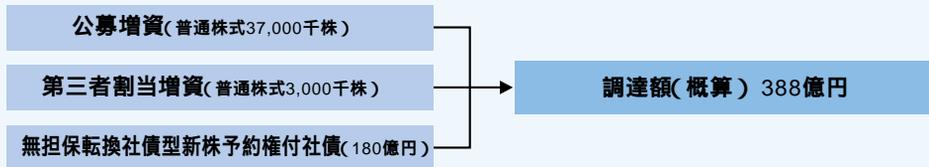
供給部門では、ガソリン基材製造装置に約142億円、環境対応のため、ガソリン中の硫黄分を取り除く脱硫装置に50億円、

販売部門では、セルフSSの建設のために150億円、

石油化学事業ではミックスキシレンを製造する芳香族製造装置に19億円

をそれぞれ充てる計画です。

エクイティファイナンスの概要



資金使途概要

連結中期経営計画(05~07年度)・設備投資計画(3ヶ年計)(単位:億円)

区分	部門	金額
戦略投資	石油開発事業	300
	供給(製油所付加価値向上)	400
	販売(セルフSS)	150
	石油化学事業	40
	その他	100
	小計	990
維持更新投資		410
投資額合計		1,400

調達資金を充当予定の内容及び金額

(単位:億円)

社名	内容	内容毎の予定金額	充当額
カタール石油開発	探鉱開発費用	57	27
コスモ石油	ガソリン基材製造装置	250	142
	ガソリン脱硫装置	50	50
コスモ石油	セルフSS建設	150	150
CMアロマ	芳香族製造装置	19	19
小計		526	388
合計		526	388

Q₄ わくわく探検隊を実施する趣旨について、教えてください。(45歳 男性)
わくわく探検隊に子どもを参加させられますか。(33歳 女性)

A₄ 「わくわく探検隊」は、当社の事業特性から車社会への還元を目的とし、1993年より毎年実施している社会貢献活動です。お子様を参加させたいというご要望を多数いただいておりますが、独立行政法人「自動車事故対策機構」に登録されているご家庭の交通

遺児の小学生のみを対象とさせていただいております。ご要望に添えず申しわけございませんが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。



交通遺児の子どもたちを対象に自然体験プログラムを実施する「コスモわくわく探検隊」

Q₅ SSでは、給油以外にどんなサービスがありますか。(63歳 男性)
コスモSSを使いたいのですが、どんな特徴がありますか。(28歳 女性)

A₅ コスモSSは地域特性や敷地面積などにより、スタッフが給油を行うフルサービスSSとお客様ご自身で給油をしていただくセルフSSがあります。一部給油に特化したSSもありますが、その他のSSでは車検・整備、高級洗車、オイル交換、タイヤ販売などの車周りの

シュレズで給油やカーケアサービスをご購入いただける他、ご購入金額に合わせてコスモ・ガソリンマイルージが加算され、キャッシュバックやプレゼントなどの特典が受けられます。



カーケア販売施設「オートビークル」を併設したSSは全国に約470ヶ所あります

サービスを提供しています。また、当社が発行するクレジットカード「コスモ・ザ・カード」をご利用いただくと、キャッ

お近くのコスモSSをお探しの場合は当社ホームページをご利用ください。

SS検索のホームページ

<http://www2.cosmo-oil.co.jp/ss/search/>
コスモ・ザ・カードへのご入会はお近くのコスモSSまたは下記ホームページへ

コスモ・ザ・カードのホームページ

<http://www.cosmo-oil.co.jp/card/>

コスモ・ガソリンマイルージのホームページ

<http://www.g-mile.com/>

カードセンター：電話0120-987622

株主の皆様からいただきました貴重なご意見につきましては、関係各部署で回覧し、今後の事業施策に盛り込み、経営に反映させていただきます。

トピックス

「環境低負荷型超低硫黄燃料製造技術の開発」で
GSC賞環境大臣賞受賞

当社は、硫黄分が10ppm以下の燃料の供給を昨年1月より開始していますが、この度、このサルファーフリー燃料の製造を可能にした技術開発が、環境負荷低減に貢献する業績と認められ「第5回グリーン・サステナブルケミストリー賞（GSC賞）環境大臣賞」を受賞しました。自動車燃料油中の硫黄分を低減できれば、排ガス浄化触媒の性能維持に使用される燃料を節約でき、燃費を改善する効果が期待できます。このため、低硫黄化は地球温暖化防止の有効な手段となります。研究については、中央研究所において1999年から触媒開発、工業的製造法の確立と製油所実装置での実証化試験を繰り返し行い、各製油所毎に適した運転条件を見出しました。高性能触媒の開発と高度な運転技術の組み合わせにより、投資を抑制しながら、環境負荷を低減できるサルファーフリー燃料の生産が可能となりました。今後とも、環境負荷を低減する技術開発に注力してまいります。

トピックス

イオンクレジットサービス(株)と
クレジットカード事業に関する事業提携に基本合意

当社はイオンクレジットサービス株式会社と新規提携カードの共同発行をはじめ、クレジットカードの事業に関する戦略的提携の実施につい

て基本合意しました。これにより、6月を目標に国際ブランドを付与した年会費無料の新規提携カードの共同発行を予定しています。SSにご来店されるお客様に新たな利便性を提供することで、新規カード会員の獲得を推進してまいります。

環境コミュニケーション

地球温暖化防止を推進するため
「チーム・マイナス6%」に参加

当社グループは「環境先進企業」を目指し、石油事業における環境負荷低減の他、石油事業以外においても様々な環境貢献活動に取り組んできました。昨年10月より、日本政府が取り組んでいる地球温暖化防止の国民運動「チーム・マイナス6%」に参加しています。チーム・マイナス6%で提唱されている「温度調整で減らそう」「自動車の使い方減らそう」などのアクションプログラムは、当社グループが取り組む連結中期環境計画と内容が合致しています。今回、このプロジェクトに参加することにより、05年度から3年間の連結中期環境計画の達成を社会に約束すると共に、グループ内だけではなく、地域社会や家庭にもこの運動への参加を呼びかけていくことで、地球温暖化防止運動の輪を広げていきます。

チーム・マイナス6%の詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.team-6.jp/>



トピックス

コスモステーションのイメージキャラクターに
吉岡美穂さんを起用

今年1月から、お客様とコスモ石油をつなぐ新しいイメージキャラクターとして、タレントの吉岡美穂さんを起用しています。吉岡さんの「親しみ」や「誠実」「素直」「親切」といったキャラクターが当社のイメージと合致しており、コスモステーションのブランドイメージの向上とコスモ・ザ・カードの発券強化、コスモ・ガソリンマイレージの浸透などSSにおける販売促進活動を盛り上げるナビゲーター役として活動を展開していきます。



コスモステーションイメージキャラクター吉岡美穂さん

トピックス

コスモ・ザ・カード「エコ」の会員数が
80,000名に到達しました

当社は、お客様と共に地球環境貢献活動を推進するクレジットカード、コスモ・ザ・カード「エコ」を2002年4月から発行しています。この度、会員数が80,000名に到達いたしました。このカードは、会員の皆様からお預かりした寄付金と当社のカード売上的一定割合を合算して「コスモ石油エコカード基金」を設立し、国内外で地球環境貢献活



コスモ・ザ・カード「エコ」

動を行うNPOなどと協力し地球環境保全活動を推進しています。02年度から04年度までの累計支援額は1億9,000万円となり、国内外で7つのプロジェクトを展開しています。

トピックス

オートビークル車検をアピールする
テレビCMを放映しています

オートビークルネットワークでは、お客様の快適なカーライフをサポートするために、車検、オイル交換、高級洗車などのカーケアサービスを提供しています。この度、オートビークル車検をアピールするテレビCMの放映を始めました。料金設定や整備内容をお客様一人ひとりのオーダーにしっかりとお応えしながら行うので、安心してお任せいただけるオートビークル車検の特徴を、洗車に訪れた夫婦のユニークな掛け合いで表現した作品です。コスモステーションは「自動車に関する全てのメンテナンスや相談ができる場所」であることを親しみやすい表現で伝えている作品です。



オートビークル車検のテレビCM「滑舌」篇

トピックス

当社IRサイトが優秀企業に選出されました
個人投資家向けIRフェアに参加しました

当社は株主や投資家の皆様へ、当社の経営内容を正しくお伝えし、理解を深めていただくために

メディアやインターネット等の多様な情報ネットワークを通じて積極的なIR活動を実施しています。この度、当社のIRサイトが大和インベスター・リレーションズ(株)の「インターネットIRサイト優秀企業」、日興アイ・アール(株)のホームページ実態調査で業種別1位に選出されました。また、1月28日には東京・六本木において日本経済新聞社主催の個人投資家向けIRフェアに出展しました。当社の事業概要などをご説明するセミナー開催のほか、ブースにて資料配布を行い、投資家の皆様と情報交換を行いました。



たくさんの方の投資家の皆様と交流しました

環境支援活動

ダム堆砂を農業用土として農地に還元する 客土事業活動に協力

当社は、お客様や各種団体と共に環境貢献活動を実施しており、現在は、NPO法人農地トラストが行っている「ダム堆砂を農業用土として農地

に還元する客土事業活動」に賛同し、同事業に協力しています。これは、ダムに堆積した土(堆砂)を除去し、堆砂の農業用土としての活用



ダム堆砂モニターのホームページ

<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/farmtrust/>

を進める事業です。その広報活動の一環として、一般の方によるダム堆砂の利用モニターを募集しており、当社は、自社ホームページでのモニター募集告知と堆砂の配送料金の補助を行っています。堆砂は、森の有機成分を大量に含んでいることから、ガーデニング用土としても適しており、楽しみながら環境保護にご参加いただけます。

環境コミュニケーション

「地球への愛のリレー」をテーマに アースデー・コンサートを開催

当社とTOKYO FMを始めとするJFN(全国FM放送協議会)加盟38局は、パートナーシップを組んで「アースコンシャス~地球を愛し、感じるこころ」をテーマに地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく活動「コスモアースコンシャスアクト」を実施しています。様々な活動のなかでも毎年4月22日の「アースデー」に開催する「アースデー・コンサート」は年間最大のイベントとなっています。今年は「音楽を通じて愛を届けたい」との思いで音楽活動を行っている倉木麻衣さんを迎え、地球への愛をテーマに歌い、ステージから観客、そして世界のリスナーへその思いをリレーしていきます。



 **Cosmo**
EARTH CONSCIOUS ACT

アースデー・コンサートに
出演予定の倉木麻衣さん

環境コミュニケーション

環境保全・CSR活動をまとめた「サステナビリティレポート2005」を発行

当社グループは、安定した収益基盤の確立と社会的責任を果たすことを経営の両輪として取り組んでいます。この度、当社グループの環境保全・社会的責任活動をまとめた「サステナビリティレポート2005」を発行しました。当社グループの経営ビジョンをはじめ経済的側面、環境的側面、社会的側面から見た様々な活動内容を分かりやすく、掲載しています。



「サステナビリティレポート2005」

内容は当社ホームページからご覧いただけます。
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/publish/sustain/>

子どものための文化活動

児童養護施設の子どもたちを対象とした「コスモ絵かきっず」を展開

家庭内暴力や児童虐待などにより、両親と離れ児童養護施設などで暮らす子どもたちが急増しています。この社会状況を鑑み、子どもたちの心の荒廃を防ぎ、元気と自信を取り戻してもらうことを目的としたアートコミュニケーションの年間プログラム「コスモ絵かきっず」を展開しています。1月には都内の施設でアーティストの南控控(みなみくうくう)さんの指導の下、子どもたちが「雪の情景と思い出」をテーマに墨絵に挑戦しました。子どもたちが社員

スタッフに助けられながら作品を作ることで心を開放するプログラムとして今後も長期的に取り組んでまいります。



南控控さんと墨絵を描く子どもたち

子どものための文化活動

病气やけがで入院している子どもたちに「クリスマスカード・プロジェクト」を実施

当社グループ社員と当社主催のプログラムに参加した子どもたちがカードに励ましのメッセージを書き、そのカードを病气やけがによる入院でクリスマスをお家で過ごす子どもたちに送る「クリスマスカード・プロジェクト」を実施しています。昨年12月で3回目となった今回はグループ社員から460枚、子どもたちから196枚と昨年度の2倍以上のカードが寄せられ、活動の認知度や関心が高まってきました。今後も社会問題に対峙した、様々な社会貢献に取り組んでまいります。



子どもたちに送ったクリスマスカード

お詫びと訂正

シーズ・メール48号(前号)8頁の連結グループ会社情報のなかで「丸善石油化学(株)」のコスモ石油グループの出資比率を33.0%と記載しましたが、昨年9月30日時点の出資比率は40.0%です。お詫びして訂正させていただきます。